

国立国会図書館サーチを活用する

えっ。今話題の国立国会図書館サーチを使いたいですか？

法定納本制度により国内の出版物を網羅的に収集保存している国立国会図書館。近年は、その膨大な収蔵資料のデジタル化が急速に進んでいて、それらを自宅等からオンラインで利用できる「個人向け送信サービス」なんていう超便利なサービスも。

2024年1月には、同館の様々なサービスを統合・整理し、わかりやすく検索結果に表示する「新国立国会図書館サーチ」がスタート。ユーザ・インターフェースも一新しました。

在学中だけでなく、生涯を通じて利用できる国立国会図書館のサービスを利用しない手はありません。

まずはオンラインで簡単にできるユーザ登録から。



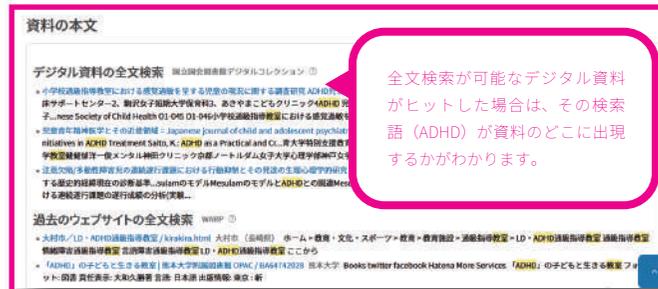
国立国会図書館サーチ



インターネットで利用可能なデジタル資料に限定して検索できます。なお、国立国会図書館が収蔵するデジタル資料だけでなく、データ連携している全国の図書館のデジタル資料で閲覧可能なものも対象になります。



検索したワードに関する調べ方の案内や他の人の調べ物事例が表示されます。



全文検索が可能なデジタル資料がヒットした場合は、その検索語（ADHD）が資料のどこに出現するかがわかります。

たとえば、「通塾率」で検索した場合、過去に埼玉県立久喜図書館で実際にあった調査相談事例「日本国内の英語塾、英会話スクールに通っている子供（幼稚園～小学生）の数、通塾率が知りたい」の調査結果等の情報を得ることができます。

	1 来館利用	2 遠隔複写	3 記事掲載箇所調査	4 個人向けデジタル化資料送信
本登録 本人確認書類の提示が必要です	○ 利用できます	○ 利用できます	○ 利用できます	○ 日本国内に居住している方のみ利用できます ※利用規約への同意が必要です
簡易登録 本人確認書類の提示は不要です	× 利用できません ※資料の取寄せと閲覧予約（関西館のみ）は申込みのみ可能です	○ 利用できます	○ 利用できます	× 利用できません

登録には、本登録と簡易登録の2種類がありますが、「4個人向けデジタル化資料送信」が利用できる本登録がオススメです。本人確認書類が必要ですが、こちらもオンラインで手続きが可能です。



国立国会図書館の便利なサービスのひとつが、この遠隔複写サービス。自宅からオンラインで簡単に依頼でき、複写物も自宅に届くんです。附属図書館の文献複写サービスは、図書館窓口での引き渡しになるので、あまり大学に來ない方は、こちらのサービスをオススメします。